

会 議 録

1 会議名

平成27年度第14回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

新水族博物館の検討状況について（公開）

【協議事項】

平成28年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成27年12月25日（金）午後5時00分から午後6時34分まで

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 増田和昭（会長）、青山恭造（副会長）、竹内明美（副会長）、
泉 秀夫、伊藤邦雄、今井不二子、小林克美、田村利男、田村雅春、
冨塚 毅、中澤武志、福島 弘、丸山朝安（欠席4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任
新水族博物館整備課：大瀧課長、山岸参事

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【増田会長】

- ・挨拶

・会議録の確認：富塚委員、丸山委員に依頼

議題【報告事項】新水族博物館の検討状況について、担当課へ説明を求める。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

・資料1に基づき説明

【増田会長】

説明に対して意見等を求める。

【田村雅春委員】

資料全体を見て感じたのだが、1ページ目の(1)の「①満足度向上の観点」で『水槽前部の柱を削除する』とあるが、耐震上の問題や補強部分、予算上の問題等は大丈夫なのか。

【新水族博物館整備課：山岸参事】

基本設計の際は、柱が水槽の近くにあったが、より見やすくするために柱を抜いた。構造計算をして、耐震基準に合致するように補強することとしている。

予算については、全体の工事費の中でできるよう努力をしている。

【今井委員】

「イルカの繁殖」について、水族博物館でイルカを繁殖させ、育てたイルカを展示することは、すごく大事なことである。かなり維持費が掛かると思うが、その辺はどうか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

生き物なので、設備を整えば妊娠するという訳ではなく、イルカ同士の相性もある。ただ、より向上した環境とするため、適切な設備を整えた。

維持費については、基本計画の中で、指定管理者である(株)横浜八景島が、収入の中で捻出し、市の一般財源(税金)は補填しないということになっているので、安心していただきたい。ただ、維持費がかかるようなら節減に努めていきたいと考えている。

【青山副会長】

現在、飼育を予定しているメス3頭とオス1頭のイルカは、どこから入手するのか。

また、イルカのネーミングの一般募集についてはどのように考えているか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

イルカの入手については、指定管理者である(株)横浜八景島を通じて入手しようと考えている。

次に、ネーミングについては、現水族博物館でも公募した「アイ」と「エツ」という

名前が付いており、皆様から愛されるような飼育の環境を整えたいと考えているので、同様に愛称を付けていただき、皆様に愛されるような飼育展示を考えている。

【青山副会長】

イルカは上越市の財産になるのか。それとも(株)横浜八景島との共有財産になるのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

現段階では、上越市で購入する予定である。ただ、生き物なので、賃貸借になる可能性もある。

【青山副会長】

イルカを借りる場合、産まれた子どもイルカの所有権はどうなるのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

イルカを借りる場合は、契約を交わす際に、子どもが産まれた場合の所有権等をきちんと定め、できるだけ有利になるように契約を交わしたいと考えている。

【増田会長】

以前、UDS株式会社がレストランに関するワークショップを開催したことについて、説明をお願いしたい。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

資料にもあるとおり、集客性については、UDS株式会社の中川社長の監修を受けている。

UDS株式会社の実績として、さいたま市大宮区の「鉄道博物館」等、非常に知名度の高い集客施設を手掛けている。なおかつ、指定管理者の選定委員会などの水族博物館整備に関する委員を務めており、過去、上越市での居住経験もあることから、中川社長に監修を依頼したところである。

新水族博物館については、UDS株式会社から飲食スペースについても監修を受けている。飲食スペースを検討する中で、中川社長から、上越市の方々の意見を聞きたいという話があった。過去にも、パブリックコメントや、報告会、地域協議会などの場を通じて各界の方々の意見を集約しているが、若者の意見が少ないため、上越市で働く20代、30代を対象にワークショップを開催した。併せて、意見の少ない子育て世代の方々を対象としたワークショップを開催し、皆様から貴重な意見をいただいたということである。

参加人数は全体で18名であった。ワークショップ形式で、自分の理想とする飲食ス

ペースのほか、広く水族博物館に求める要望も含めて、有意義な意見が聞けたと思っている。

【増田会長】

中川社長から提案があった場合の取り扱いはどうなるのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

年度末を目安に提言をいただく予定である。

その後の取り扱いについては、最終的には、(株)横浜八景島が飲食スペースを含めた建物全体を管理するため、市及び指定管理者、様々な監修者、それぞれの意見を総合的に踏まえて進めていきたいと考えている。

【伊藤委員】

資料の行程表を見ると、施工は平成29年3月に完了し、平成30年の4月から6月に開館となっているが、周辺の環境整備も整えてからの開館となるのか。

【新水族博物館整備課：山岸参事】

平成29年3月には建物本体、第一駐車場や植栽等を含めた部分が完了するという事である。

現在の水族博物館を壊した後について、議会からも「駐車場等の整備後にオープンすることが望ましい」と言われているが、生物の移動等の問題があるので、(株)横浜八景島と協議していく中で閉館の時期を見定めたいと考えている。

【伊藤委員】

以前いただいた完成予想図の画が、どの辺まで整備されて開館するのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

水族博物館周辺一帯の話かと思うが、まず、市が目指すのは、建物本体の周りを整備するということが大前提だと考えている。さらに周辺の広大な面積の部分は、もう少し長期的に時間をいただき、検討していきたいと考えている。

【伊藤委員】

住民からも聞かれるため、何かの機会にはっきりとした話を聞きたいところである。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

周辺は民間施設であり、市としてもそういった部分を踏まえて、いろいろな議論をしているが、決して諦めている訳ではない。一つひとつ丁寧に、関係者の方々に理解をいただきながら、地元住民の意見も踏まえ、進めていきたいと考えているので、御協力を

お願いしたい。

【小林委員】

「第一駐車場」とはどの場所か。

【新水族博物館整備課：山岸参事】

現在の第一駐車場に新水族博物館を建設するため、「第一駐車場」は現水族博物館を壊した所と考えている。名称は「第一駐車場」になるのかは決定していないが、今後進めていく中で、皆さんに分かりやすい表記を検討していきたい。

【小林委員】

伊藤委員の質問に対する回答を聞いて、若干期待できると思った。確かに民間の所有物のことは交渉事であり、公の場で答えることは難しい。ある程度の期待を持ち、見守っていきたいと思う。

現水族博物館の展示物が新水族博物館に全部入る訳ではないと思うが、今、展示しているコツメカワウソや大きな亀など、新水族博物館で飼育する種類等の考え方はどうなっているのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

展示生物については、まさしく「水族博物館の命」だと考えている。今回、全面的なリニューアルにあたり、展示するものはゼロベースで考えている。現在の人気生物等も踏まえ、指定管理者でどういった展示物が良いのかを検討しており、最終段階にきている。明らかになったら皆様にも説明させていただくが、経営主体である指定管理者の意見を踏まえ、ゼロから積み上げるという基本方針で検討している。

動物園や水族博物館では、動物の交換や展示生物の交換を頻繁に行っている。例えば、開館するにあたりコツメカワウソを展示しないとしても、再び上越市に戻ってくるということもある。皆さんの意見を踏まえて、できるだけ多くの皆さんに満足、納得のいただけるような形で展示したいと考えている。

【小林委員】

先ほど、イルカのネーミングの話も出たが、現在「上越市立水族博物館」という堅苦しい名前である。私は「上越市立直江津水族博物館」だと思っていたが、例として「マリンピア日本海」など、いろいろなネーミングがあると思う。これについて何か考えがあるか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

堅苦しい名前だという意見もあり、賛否両論ある。「マリンピア日本海」も愛称であり、全国の水族博物館でも使い分けをしている。まだ時間もあるので、愛される水族博物館として、「愛称」と「正式名称」は、それぞれ何が良いのか、皆さんの意見を聞き決めたいと考えている。現段階では、愛称を付ける方向になるかもしれないと思っている。

【田村雅春委員】

先ほど、「周辺を整備するということが大前提」と言っていたが、周辺というのはどこまでのことを言うのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

私が申し上げた「周辺」のイメージは、まず、建物があって、今の第一、第二、第三駐車場があって、旧上越自動車学校のある西側の新しく整備する駐車場、それと、海浜公園と屋台会館である。市の管轄下にある所を含めて「周辺」と考えている。

【田村雅春委員】

新水族博物館が建つが、その間、古い水族博物館が存在する。このタイムラグはどれくらいか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

現在、協議中であるが、今、水族博物館にいる魚をほとんど移送しないのであれば、閉館を早め、建物の取り壊しを早い段階でする。逆に、今いる魚たちをできるだけ移したいということになると、できるだけ建物をそのままにして、新しい水槽ができたなら移送するということになる。今の段階では、早ければ平成29年の秋、遅ければ、新水族博物館がオープンし、繁忙期が過ぎてから取り壊すということもあるかもしれない。その辺は非常に幅があると考えている。

【小林委員】

水族博物館に入らなくてもレストランに入られるが、ミュージアムショップは、水族博物館に入らないと行けないシステムなのか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

ミュージアムショップは有料ゾーンということで、水族博物館の入館料を払い、水族博物館エリアに入った人の利用スペースとして考えている。物販に関しては、ワゴンがあればどこでもできるので、無料ゾーンである飲食スペースに販売用のワゴンを置いたり、来客数が多い時期には臨時的にワゴンを置いたり、柔軟に取り扱えると思っている。

【小林委員】

「マリンピア日本海」は入館料を払わなくてもミュージアムショップに入れるようになっている。そういう需要もあるのではないか。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

その辺も柔軟に考えたいと思う。

【今井委員】

先ほど小林委員が、周辺整備について「交渉事だから難しいので、静かに見守る」と言っていたが、私はイメージが大切だと思う。関係する方々に働きかけをしていただきたい。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

市としても、水族博物館の中だけが綺麗であれば良いという考えは持っておらず、海や周り全体の景色も含めた借景で満足度が向上すると考えている。繰り返しになるが、今すぐ、という訳にはいかないが、関係する方々に働きかけていくことも考えられる。

【増田会長】

周辺の皆さんや委員の皆さんは、渋滞について一番心配しているが、渋滞対策については、いつごろたたき台ができて、どんな段取りになるのかというのが一点。

二点目は、(株)横浜八景島の収支計画はどの辺で示していただけるのか。

三点目は、ミュージアムショップは、主に水族博物館に関する商品を置くことになると思うが、市民の皆さんからは「上越のお土産を販売できないか」という意見もあった。その辺の考え方をお聞かせいただきたい。

【新水族博物館整備課：大瀧課長】

渋滞対策については、上越大通りから海に向かって水族博物館前のT字路まで整備し、直江津中等教育学校前の曲がっている所も拡幅する。海側の道路も渋滞対策、交通安全対策のために拡充する。直江津中等教育学校と現水族博物館の間にある道路も右折車線を増設するなど、渋滞対策を図っていきたいと考えている。

館周辺のハード整備の他にも、時代と共に高速道路網が整備されているので、長野から来るお客様を中心とした渋滞も想定されるので、上越信越自動車道の上越高田ICから向ってくるお客様、それらの方々の動線について本年8月に交通量調査を行った。一番多いのが上越ICであるが、車がどういった動線を通ってくるのかを調査したので、広域的な動線、誘導確保はどういったものが良いのか、交通計画を策定している。来年の3月くらいには市の内部で固め、その後、皆様にお示しできるのではないかと考えて

いる。

二点目の収支計画については、基本計画の中でも示してあるが、これから決める入館料、集客予測を再度精査し、大きく変更するようなことがあれば、皆様に報告させていただくが、今のところ、基本計画でもきちんとした収支計画を立てているので、大きな変動はないと考えている。

三点目のミュージアムショップの販売品については、基本的には指定管理者である㈱横浜八景島が指定管理の業務の中で販売品を選定するが、原則として、水族博物館に関連したものが中心になると考えている。地元の特産品に関しても、その中で販売するのが良いのか、無料ゾーンの飲食スペースに上越の特産コーナーを設けるのが良いのか、車で来館される方が大半なので、直江津の街なかで販売しているお店を紹介するのが良いのか、上越観光物産センターを案内するのか、選択肢は多ければ多い方がいいと思うので、来館された方々に情報提供をし、お好きな所で満足度の高いものを購入していただけるような方法が良いかと考えている。

【増田会長】

他に意見等はあるか。

順次決まったら説明いただき、一緒に考えていきたいと思うし、いずれにしても、市民の期待が非常に高い施設なので、それを踏まえて一緒に良い物を造ろう、というスタンスで進めて行ければと思っている。今後ともよろしく願いたい。

本件については、これで終了とする。

— 新水族博物館整備課 退室 —

議題【協議事項】平成28年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・資料No.2、No.3に基づき説明

【増田会長】

只今の説明に対して質問等はあるか。

(特になし)

資料No.3の上に「直江津区地域活動支援事業採択方針」とあるが、基本的には、これを踏襲していくことになると思うが、皆さんから、「ここは補強したほうがいい」という意見があれば伺いたい。

(意見なし)

今日は、全て決定するというのではなく、採択方針の表現や事業の例示などがあれば挙げていただき、次回の協議会の際に決定したいと思う。

次に募集期間だが、4月1日から概ね1か月程度となっているが、どうか。

事務局案の日程は、採択の決定が6月の第一週目か二週目と、例年より遅い設定だが、委員改選による新しい委員のことに配慮している。4月29日から新しい委員になるため、任命後直ぐに提案事業の採点するのは難しい。その前に「地域協議会の役割」等をしっかり理解してもらうことが必要である。会長・副会長の決定も必要である。なるべく早めに協議会を決定したほうが良いと思うし、新しい委員には、提案内容等を丁寧に説明することが必要だと考えている。

私は、なるべく早めの日程にできるよう工夫して、採択結果を早く出したいと考えている。

【小林委員】

提案書受領日の5月7日は、土曜日だが良いのか。

【荒木係長】

「受領」というのは委員の皆さんが受領するということである。4月28日までを募集期間とし、その後、事務局で提案書（写し）の資料準備をして、5月7日には委員の手元に資料が届くということである。

【増田会長】

募集期間は、直接、委員改選に関係ないので、早めの締切で良いのではないかとこの考え方もある。

例えば、「委員の役割」を説明する日に提案書を配り、日にちを置いてから、改めて提案内容の説明をするほうが良いのではないと思う。

方向としては、採択の結論は早めに出すという方向で、合理的に進めて行きたいと思っている。

【中澤委員】

今まで質疑応答など提案団体とのやりとりは、全て文書で行っており、一部の提案者から、提案の趣旨説明をするヒアリングの機会を作ってほしいとの声を聞いている。それ程、採択スケジュールに大した違いがないのであれば、なるべく丁寧なやり方をしたほうが良いのではないかと。

【増田会長】

ヒアリングを行う場合は、新しい委員のことも考え、提案者とのやりとりに十分配慮しながらやっていく必要がある。

【小林委員】

ヒアリングは、全ての提案団体にヒアリングをするということか。

【増田会長】

ヒアリングを行う理由としては、提案者からの質問の回答だけでは分からない場合と提案団体が補足説明をする場合がある。

【小林委員】

ヒアリングをやらなくてもいい提案団体もあるということか。

【増田会長】

そういう提案団体もあると思う。

ヒアリングに対して、何か意見等はあるか。

【泉委員】

私はヒアリングを行う日程案に賛成である。丁寧に採択する方法で一番手っ取り早いのがヒアリングだと思う。

【増田会長】

他の皆さんはいかがか。

【田村雅春委員】

提案者からみれば、地域協議会で熱意を持って説明して有利になる場合と逆に不利になる場合もあるかもしれないが、ヒアリングをやらないよりはやったほうが良いと思う。

【竹内副会長】

私も皆さんと同じく、丁寧に提案者の提案を受ける、という真摯な対応が必要だと思う。早く採択するということも必要だと思うが、丁寧に受け止めるという部分では、ヒアリングが必要だと思う。ヒアリングの日を設けて、全体協議をして点数を付けるということは大切であるため、私は、ヒアリングをするという方向で進めていただきたいと思います。募集期間も慌てることはなく、提案者と分かりあうということは、とても大切なことであり、私は、余裕のある「2案（ヒアリングあり）」が良いと思う。

【増田会長】

皆さんの意見を踏まえて日程調整していきたい。

次に「周知方法」だが、平成27年度と同様にしたいと考えているが、よろしいか。

(異議なし)

次に「補助率」だが、これも平成27年度と同様にしたいと考えているが、よろしいか。

(異議なし)

次に「審査方法」だが、今ほどの協議で、「ヒアリング」を入れるということだったので、事務局にお願いしたい。

次に「傾斜配点」、「採択」、「その他」についてだが、これも平成27年度と同様にしたいと考えているが、よろしいか。

(異議なし)

では、日程以外は平成27年度と同様ということで進めて行きたい。

先ほどの採択方針についてだが、例えば、他の地域協議会で「買い物支援事業」を出した地区がある。「優先的に採択する事業の分野」で、補足説明をしたほうが分かりやすい事業等があれば付け加えたいと思う。

以上で平成28年度地域活動支援事業については、終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会の議題について報告
- ・「(仮称)女性を対象とした直江津のまちづくりを話し合う会」について説明。

【増田会長】

事務局の説明に対して意見等を求める。

【泉委員】

私は良いと思っているが、会場に来られる方は限られる。参加される方々から町全体を代表するような意見が出れば良いが、大方の皆さんは、このような場所に出てこられないと思う。その大方の皆さんの意見をどのように吸い取るのか。例えば、五智の代表の方から何人かのグループを作っていただき、私たちがそこへ入るというようなことをすれば、より一般的な意見が聞かれるのではないか。そこも併せてやってはいかかと思う。

【今井委員】

泉委員と同感である。そのほうが人も身近に集まれる。委員は忙しくなると思うが、それが本来の地域協議会の役割なのではないかと考えるので、これは是非、実施したほ

うが良い。

【増田会長】

確かに地域協議会をよく知っていただくためには、出前的なものも必要だと思う。

【中澤委員】

7月に開催した住民との意見交換会の雰囲気を出しているのだが、今度は全て女性である。「自由な意見交換」となっているが、「グループ分けし、意見交換をしてください」では、どうなるか分からないので、ある程度会議の流れを想定しておかないといけないと思う。

【増田会長】

他に意見等を求める。

(意見なし)

では、事務局の素案どおり、進めて行きたいと思う。

【荒木係長】

・「直江津まちづくり構想」について、今後の進め方について報告

【増田会長】

「地域を元気にするために必要な提案事業」について、関係課と意見交換したが、この扱いについてはどうするか。基本的にこの事業は、提案書を出すことになっているが、内容が熟していないため、意見書で出したらどうか、という意見も一部である。協議会としては、意見書ではなく、住民の皆さんから意見を聞き、行政とも話し合いをしているので、提案書で出したいと思っているが、その辺を自治・地域振興課に確認をして、皆さんに説明するというところで、御承知いただきたい。

【泉委員】

意見書と提案書の違いについて教えていただきたい。

【荒木係長】

現在の取組案は、市が主体となってやるべきこととして取りまとめたものだと思う。市で100%行う事業に対して意見を言うのは「意見書」である。市と地域が協働して行う事業が「提案書」になる。

【泉委員】

意見書と提案書の違いは分かるが、受け取る側のインパクトとしては、どれだけあるのか。

【荒木係長】

提案書になった場合は、市が予算化することになる。それまで、市の関係課と協議し、いろいろなことを積み上げた状態で提案書にするということである。

意見書は、内容が積み上がらないうちに「こういうことをしてはどうか」と市へ意見するということである。

【泉委員】

「地域を元気にするために必要な提案事業」の仕組みから言ったら、どう考えても意見書しか出せないのではないか。

【荒木係長】

今の段階では意見書を出すということである。それで終わりではなく、まだ、取組項目が幅広い状態なので、例えば一つに絞り、それを煮詰めていく。そして、予算化にできる状態になったら提案書として出すということ是可以する。

【増田会長】

行政側と相談しながら一つの物を作るという発想である。これが「地域を元気にするために必要な提案事業」のスタイルだと思うので、観光振興課など関係課と協議していくことが必要である。

【泉委員】

私の「地域を元気にするために必要な提案事業」の認識から言うと、例えば、年度初めの4月だと、会長の言われるとおりが、予算化が進んでいる今の段階で、提案して予算化すること自体に無理があると思う。時期的に遅すぎるのではないか。せつかくここまでやっているのだから、できるだけ実現化に向かわなければいけない。

【増田会長】

関係課とお互いに理解した上で進めないといけないので、今後の進め方について、自治・地域振興課に確認したい。

【泉委員】

我々の意見は自由発言なので、いつまで経っても結論が出ない。私自身では、正・副会長に一任するので、無理のないように決めていただきたい。

【増田会長】

文言の整理は、正・副会長で整理をし、まとめたい。提出方法も関係課とお互いが理解し合える形で出せばいいと思っている。

もう一つ課題があるが、平成29年度、30年度のものをどうするかである。そのことは新しい委員に丸投げという訳にはいかないので、年度別に様式にまとめるという作業が残っている。予算だけではなく、附帯的なものもあるので、一応まとめておき、まとめた結果を新しい委員へ引き継ぎ、話し合っただけであればと思う。

日程的に厳しくなってくるが、任期ギリギリまで頑張っていたきたい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。